

2021年1月29日

「Yakult（ヤクルト）1000」の全国販売を開始

株式会社ヤクルト本社（社長 根岸孝成）は、乳製品乳酸菌飲料「Yakult（ヤクルト）1000」の販売地区を全国に拡大します。

「Yakult（ヤクルト）1000」は、現在、北海道・東北地区全域、関東1都6県（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）および静岡県、山梨県、長野県、新潟県で販売し、お客さまから好評を得ております。このたび、2021年4月5日から販売地区を全国に拡大します。

「Yakult（ヤクルト）1000」は、生きた「乳酸菌 シロタ株」を1本（100ml）に1,000億個含む、当社史上最高菌数・最高密度*の乳製品乳酸菌飲料です。

本品は、当社初の機能性表示食品で、一時的な精神的ストレスがかかる状況での「ストレス緩和」「睡眠の質向上」の機能があります。

なお、「Yakult（ヤクルト）1000」の2021年4月から2022年3月までの販売目標は1日当たり1,100千本です。

※ 1ml当たり10億個の「乳酸菌 シロタ株」が含まれており、これは当社史上最高菌数・最高密度の乳製品乳酸菌飲料です。



【商品特長】

- ヤクルト独自の「乳酸菌 シロタ株」が1本（100ml）に1,000億個含まれています。
- 「Newヤクルト」の相似形容器（100ml）を採用しています。
- 当社初の機能性表示食品です。（届出番号：D279）

<届出表示>

本品には乳酸菌 シロタ株（L. カゼイ YIT 9029）が含まれるので、一時的な精神的ストレスがかかる状況でのストレスをやわらげ、また、睡眠の質（眠りの深さ、すっきりとした目覚め）を高める機能があります。さらに、乳酸菌 シロタ株（L. カゼイ YIT 9029）には、腸内環境を改善する機能があることが報告されています。

- ・食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。
- ・本品は、機能性表示食品です。特定保健用食品と異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。
- ・本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

【賞味期限延長】

- 2021年3月30日製造分から、現行の「製造日から18日後」を「製造日から21日後」へ3日間延長します。

◆商品情報

- ・商品名：「Yakult（ヤクルト）1000」
- ・商品分類：乳製品乳酸菌飲料
- ・内容量：100ml／本
- ・希望小売価格：130円／本、910円／7本パック（いずれも税別）
- ・販売チャネル：ヤクルトレディによる訪問販売等

以上

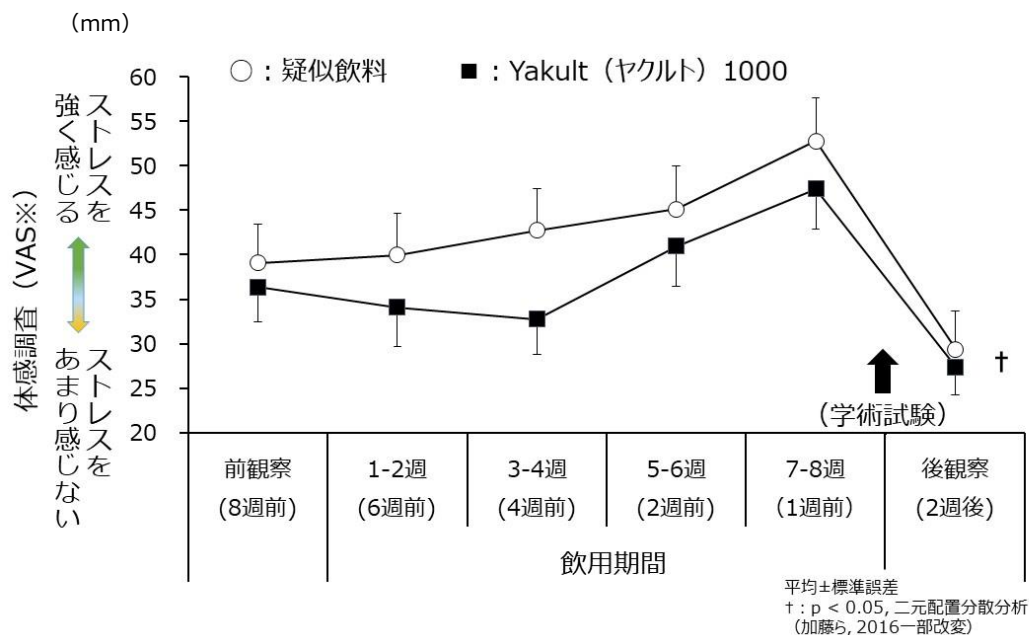
<参考資料1：「ストレス緩和」作用について>

【ストレスの体感】

1. 進級に重要な学術試験を受験する4年次の健常な医学部生の男女を2群に分け、被験食群には「Yakult（ヤクルト）1000」を、対照群には疑似飲料（味や外見は同じで、有効成分を含まないもの）を1日1本（100ml）、学術試験の8週間前から飲用してもらいました。
2. その結果、ストレス体感調査（VAS*）において、被験食群では対照群と比較して有意に低い値を示しました（対象者47名）。

※ Visual Analog Scale：視覚的アナログ尺度

長さ100mmの黒い直線の左端が「ストレスがまったくなかった（0mm）」、右端が「耐えられないほど強いストレスを感じた（100mm）」とし、評価対象の週にどの程度ストレスを感じたか、該当する箇所に印を付けてもらいました。



<論文情報>

雑誌名：Applied and Environmental Microbiology

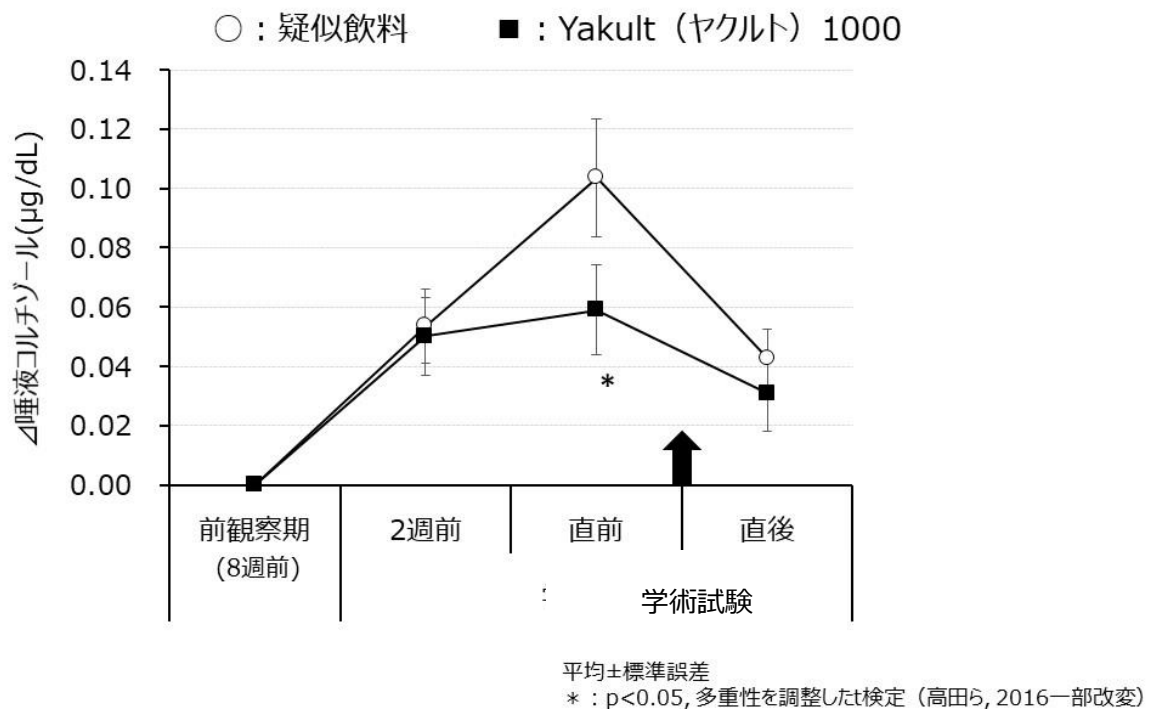
論文表題：Fermented Milk Containing *Lactobacillus casei* strain Shirota Preserves the Diversity of the Gut Microbiota and Relieves Abdominal Dysfunction in Healthy Medical Students Exposed to Academic Stress

著者：A. Kato-Kataoka,¹K. Nishida,²M. Takada,¹M. Kawai,¹H. Kikuchi-Hayakawa,¹ K. Suda,¹H. Ishikawa,¹Y. Gondo,¹ K. Shimizu,¹ T. Matsuki,¹ A. Kushiro,¹ R. Hoshi,³ O. Watanabe,³T. Igarashi,³ K. Miyazaki,¹ Y. Kuwano² and K. Rokutan²

¹ Yakult Central Institute, Tokyo, Japan; ² Department of Pathophysiology, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University Graduate School, Tokushima, Japan; ³ Faculty of Research and Development, Yakult Honsha Co., Ltd., Tokyo, Japan

【唾液コルチゾール】

1. 進級に重要な学術試験を受験する4年次の健常な医学部生の男女を2群に分け、被験食群には「Yakult (ヤクルト) 1000」を、対照群には疑似飲料を1日1本(100ml)、学術試験の8週間前から飲用してもらう試験を3年度に渡り実施し、その3試験のデータを取りまとめて解析(対象者140名)を行いました。
2. その結果、被験食群では対照群と比較して、ストレス下で増加することが報告されている唾液中コルチゾール濃度の上昇が学術試験の直前に有意に抑制されました。



<論文情報>

雑誌名 : Neurogastroenterology & Motility

論文表題 : Probiotic *Lactobacillus casei* strain Shirota relieves stress-associated symptoms by modulating the gut-brain interaction in human and animal models

著者 : M. Takada,¹ K. Nishida,² A. Kato-Kataoka,¹ Y. Gondo,¹ H. Ishikawa,¹ K. Suda,¹ M. Kawai,¹ R. Hoshi,³ O. Watanabe,³ T. Igarashi,³ Y. Kuwano,² K. Miyazaki¹ and K. Rokutan²

¹ Yakult Central Institute, Tokyo, Japan; ² Department of Pathophysiology, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University Graduate School, Tokushima, Japan; ³ Faculty of Research and Development, Yakult Honsha Co., Ltd., Tokyo, Japan

<参考資料2：「睡眠の質向上」作用について>

【睡眠の質向上（眠りの深さ、すっきりとした目覚め）】

1. 進級に重要な学術試験を受験する4年次の健常な医学部生の男女を2群に分け、被験食群には「Yakult（ヤクルト）1000」を、対照群には疑似飲料を1日1本（100ml）、学術試験の8週間前から試験終了後3週間まで飲用してもらう試験を2年度に渡り実施し、その2試験のデータを取りまとめて解析（対象者94名）を行いました。
2. その結果、脳波の測定による評価において、被験食群では対照群と比較して、熟眠（深い眠り）時間を示す指標（ノンレムステージ3の睡眠時間^{※1}）と熟眠度を示す指標（第一周期のデルタパワー^{※2}）に有意な増加が認められました。
3. OSA 睡眠調査票 MA 版^{※3}による眠りの評価において、被験食群では対照群と比較して、「起床時眠気（すっきりとした目覚め）」を示すスコアに有意な改善が認められました。

※1 ノンレムステージ3の睡眠時間

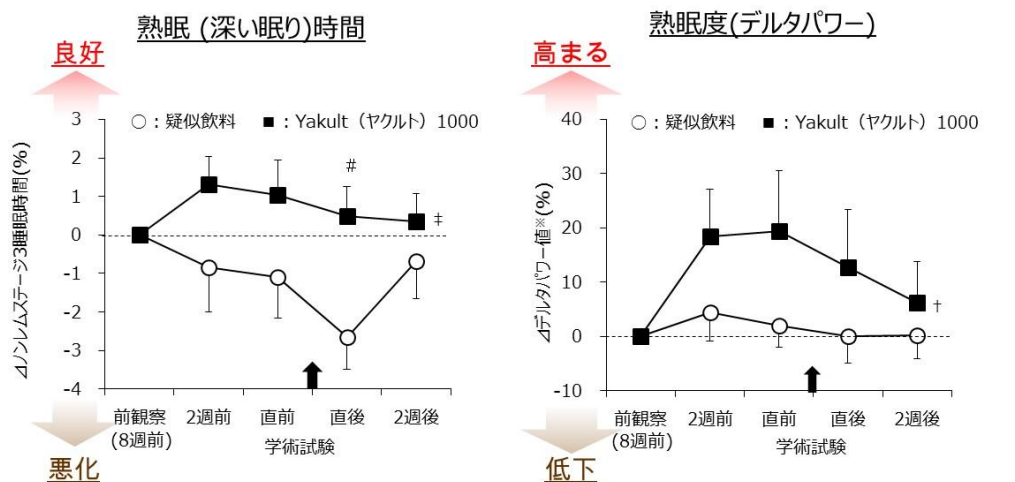
ノンレム睡眠を3段階（ノンレムステージ）に分類したときの最も深い眠りの段階（ステージ3）の時間を示しています。

※2 第一周期のデルタパワー

周波数帯域が4Hz未満のゆっくりした脳波はデルタ波と呼ばれ、第一周期の深い睡眠時に多く出現することから、その量（デルタパワー）は熟眠度の指標とされています。

※3 OSA 睡眠調査票 MA 版

主観的な睡眠感を評価する調査票

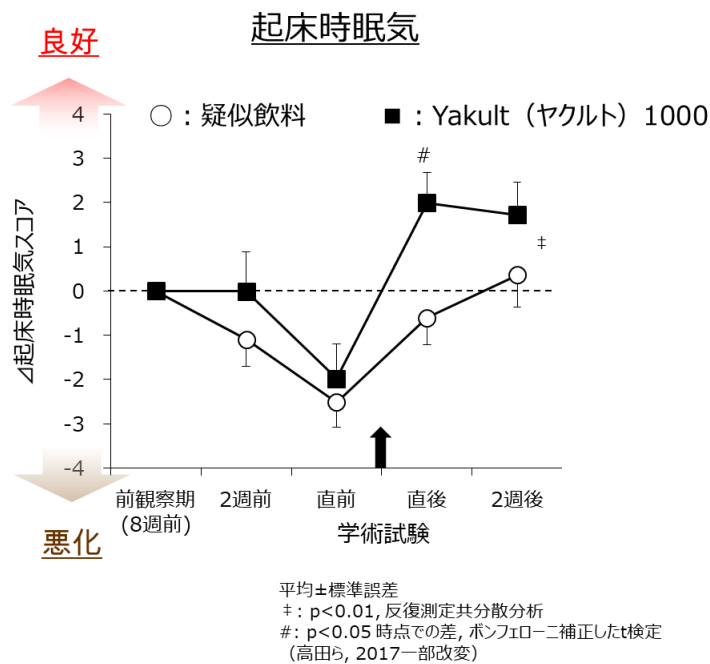


平均±標準誤差

†, ‡: p<0.05, 0.01, 二元配置分散分析

#: p<0.05 時点での差, ボンフェローニ補正した検定

※第1周期の1分あたりのデルタパワー (μV²/min) から算出 (高田ら, 2017一部改変)



<論文情報>

雑誌名 : Beneficial Microbes

論文表題 : Beneficial effects of *Lactobacillus casei* strain Shirota on academic stress-induced sleep disturbance in healthy adults: a double-blind, randomised, placebo-controlled trial

著者 : M. Takada,^{1#} K. Nishida,^{2#} Y. Gondo,¹ H. Kikuchi-Hayakawa,¹ H. Ishikawa,¹ K. Suda,¹ M. Kawai,¹ R. Hoshi,³ Y. Kuwano,² K. Miyazaki¹ and K. Rokutan²

¹ Yakult Central Institute, Tokyo, Japan; ² Department of Pathophysiology, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University Graduate School, Tokushima, Japan; ³ Faculty of Research and Development, Yakult Honsha Co., Ltd., Tokyo, Japan; # These authors contributed equally to this work